

報道関係者各位

平成 20 年 10 月 17 日
森ビル株式会社
森美術館

森美術館 開館5周年 ～ 5年間で665万人が来館～

森ビル株式会社が運営する森美術館(六本木ヒルズ森タワー53階)は、2008年10月18日、開館5周年を迎えます。

六本木がアートの街となる先駆けに

森美術館は、2003年10月18日に開館、六本木ヒルズ森タワーの最上層に位置し、六本木ヒルズの「文化都心」というコンセプトの象徴的役割を果たしてきました。開館以来、「アート&ライフ」をテーマに、現代アートを中心に建築、デザイン、ファッションを紹介する展覧会を開催し、5年間で合わせて665万人以上のお客様にご来館いただきました。(別紙参照)

現在六本木は、アートの街として確立しつつありますが、森美術館は、六本木地区の他の美術館の先陣をきって開館し、その先駆けとなりました。



『ハピネス:アートにみる幸福への鍵』展(2003)



『六本木クロッシング 2007:未来への躍動』展(2007)

現代アートの発信拠点として ～常にユニークな視点で企画

開館記念展の『ハピネス:アートにみる幸福への鍵』(2003年)では、すべての人にとって身近な「幸福」をテーマに、6世紀から19世紀までの日本美術・アジア古典美術、西洋美術、現代アートまでを同じ空間に展示し、その展示方法が話題になりました。また、『アフリカ・リミックス:多様化するアフリカ現代美術』展(2006年)や次回展の『チャロー・インディア:インド美術の新時代』(2008

年)では、フィールド・リサーチをもとにユニークな展覧会を企画し、日本では紹介される機会の少なかった作品を紹介しています。

一方で、これまでに2回行った『六本木クロッシング』展(2004年、2007年)は、日本のアートシーンの動向に注目する森美術館独自の企画展として、日本で活躍するアーティストを国内外に紹介する貴重な役割を果たしています。日本の現代アート情報をリアルタイムで発信するという意味でも海外から注目されています。

また、海外の美術館との連携にも力を入れており、『杉本博司:時間の終わり』展(2005年)や『東京-ベルリン/ベルリン-東京展』(2006年)は、森美術館発で、海外巡回を果たしています。その一方で、世界を代表する海外の美術館で開催された、『英国美術の現在史:ターナー賞の歩み』展(2008年、テート・ギャラリー)や『アネット・メサジェ:聖と俗の使者たち』展(開催中、ポンピドゥー・センター、パリ国立近代美術館)は、日本での唯一の巡回館となりました。

さらに、これから活躍する若手アーティストを支援するプロジェクトシリーズとして、「MAMプロジェクト」を展開し、これまでに合わせて8回の展覧会を開催しています。

開かれた美術館を目指して

各展覧会では、多彩なパブリックプログラム(教育普及活動)を積極的に開催しています。例えば、ベビーカーに赤ちゃんを乗せて親子で展示を楽しむツアー「おやこでアート」は、赤ちゃん同伴の受け入れ体制を整え、これまで美術館に足を運ぶことを遠慮していた人などにも開かれた美術館を目指しています。さらに視覚や聴覚に障害を持つ方々へのプログラムのほか、港区内を中心に、幼稚園や福祉施設などと連携し、コミュニティに根ざした活動も行ってきました。



「おやこでアート」の様子



小学生を対象としたツアーの様子

また、開館当時としては珍しい夜間開館(夜 22 時まで)を実施し、都心において、仕事帰りに行くことができる美術館として新しいライフスタイルの創出に貢献しました。展示の説明やカタログなどについても、当初からバイリンガル(英語)対応を充実させ、六本木ヒルズという国際的で文化を発信する街にふさわしく、在日外国人や海外のお客様のニーズに応えてきました。

さらに、近隣にある国立新美術館、サントリー美術館と共に「六本木アート・トライアングル」を形成し、六本木エリアをアートの拠点として盛り上げていくために、六本木地区のアートマップの制作を行い、相互割引を実施するなど様々な連携に取り組んでいます。

今後の取り組みについて

森ビルは、「ヴァーティカル・ガーデン・シティ-立体的な緑園都市」をコンセプトに、職・住・商・憩・遊・学・育・医といった様々な機能を組み合わせたコンパクトシティに、美術館を始めとして、コンサートホールや会員制クラブ、社会人教育施設など様々な文化装置を集約し、都市における、人々との出会い、交流、対話を育んでいます。

そのような中で、日本と海外双方をアートによってつなぎ文化外交の一役を担うこと、日本およびアジア地域のアーティストを国際的な舞台にのせていくことは日本の美術館の重要な使命のひとつだと考えています。森美術館では、今後も、「文化都心」六本木ヒルズの象徴として、日本やアジア地域のアートの紹介に力を注いでいくと共に、既存の美術館のあり方にとらわれず、諸外国のトップレベルの美術館と対等の活動を目指して参ります。

次回展覧会 「チャロー！ インディア：インド美術の新時代」

2008年11月22日（土）～2009年3月15日（日）

デリー、ムンバイ、バンガロール、ヴァドーラといった都市を拠点に活躍する27組のアーティストによる絵画、彫刻、写真、インスタレーションなど多岐にわたる作品を通して、国際的に大きな注目を集めているインド現代美術の「今」を探ります。

< 本件に関するお問い合わせ先 >

森美術館 広報部 渡邊・田村

TEL:03 - 6406 - 6111 FAX:03 - 6406 - 9351 E-mail: pr@mori.art.museum

森ビル株式会社 広報室 野村・森澤

TEL:03 - 6406 - 6606 FAX:03 - 6406 - 9306 E-mail: koho@mori.co.jp

森美術館 5年の歩み(展覧会一覧)

| | 展覧会名 | 会期 | 会期日数 | 入館者数 |
|----|--|------------------------|------|-----------|
| 1 | ハピネス展:アートにみる幸福への鍵 モネ、若冲、そしてジェフ・クーンズへ | 2003年10月18日～2004年1月18日 | 93 | 730,985 |
| 2 | 六本木クロッシング: 日本美術の新しい展望 2004 | 2004年2月7日～4月11日 | 65 | 362,366 |
| 3 | KUSAMATRIX:草間彌生展 | 2004年2月7日～5月9日 | 93 | 521,773 |
| 4 | MoMA:ニューヨーク近代美術館展 モダンってなに?:アートの継続性と変化、 1880年から現在まで | 2004年4月28日～8月1日 | 96 | 223,899 |
| 5 | イリヤ&エミリア・カバコフ展 「私たちの場所はどこ?」 | 2004年5月29日～7月19日 | 52 | 90,083 |
| 6 | COLORS:ファッションと色彩 VIKTOR & ROLF & KCI | 2004年8月24日～12月5日 | 104 | 419,376 |
| 7 | 小沢剛:同時に答える! YES&NO | | | |
| 8 | ジョージ ジェンセンの100年展:スカンジナビア ン・ジュエリーとシルバーウェア | 2004年10月30日～11月21日 | 23 | 111,249 |
| 9 | アーキラボ:建築・都市 ・アートの新たな実験 1965-2005 | 2004年12月21日～2005年3月13日 | 83 | 335,617 |
| 10 | 秘すれば花:東アジアの現代美術 | 2005年3月29日～6月19日 | 83 | 290,608 |
| 11 | ストーリーテラズ:アートが紡ぐ物語 | | | |
| 12 | 中国 美の十字路 展 後漢から盛唐へ フォローミー! | 2005年7月2日～9月4日 | 65 | 258,458 |
| 13 | 新しい世紀の中国現代美術 | | | |
| 14 | 杉本博司:時間の終わり | 2005年9月17日～2006年1月9日 | 114 | 515,479 |
| 15 | 東京 - ベルリン / ベルリン - 東京展 | 2006年1月28日～5月7日 | 100 | 342,622 |
| 16 | アフリカ・リミックス: 多様化するアフリカ現代美術 | 2006年5月27日～8月31日 | 97 | 313,400 |
| 17 | ビル・ヴィオラ:はつゆめ | 2006年10月14日～2007年1月8日 | 87 | 340,582 |
| 18 | 日本美術が笑う:縄文から20世紀初頭まで | 2007年1月27日～5月6日 | 100 | 348,367 |
| 19 | 笑い展:現代アートにみる「おかしみ」の事情 | | | |
| 20 | ル・コルビュジエ展: 建築とアート、その創造の軌跡 | 2007年5月26日～9月24日 | 122 | 593,711 |
| 21 | 六本木クロッシング2007:未来への脈動展 | 2007年10月13日～2008年1月14日 | 94 | 382,450 |
| 22 | アートは心のためにある: UBSアートコレクションより | 2008年2月2日～4月6日 | 65 | 196,706 |
| 23 | 英国美術の現在史:ターナー賞の歩み展 | 2008年4月25日～7月13日 | 80 | 301,106 |
| 24 | アネット・メサジェ:聖と俗の使者たち | 2008年8月9日～11月3日 | 87 | 開催中 |
| | | | 合計 | 6,678,837 |

入館者数は、東京シティビューとの共通。MoMA 展は単独。
入館者数に、現在開催中の「アネット・メサジェ:聖と俗の使者たち」は含まず。

| | | |
|---|--|------------------|
| 1 | MAMプロジェクト001:サンティアゴ・ククル | 2004年1月31日～3月28日 |
| 2 | MAMプロジェクト002: ジョン・グエン=ハツシバ | 2004年5月29日～7月19日 |
| 3 | MAMプロジェクト003:ROR (レボリューションズ・オン・リクエスト) | 2005年5月14日～7月18日 |
| 4 | MAMプロジェクト004:チェ・ウラム | 2006年3月10日～5月7日 |
| 5 | MAMプロジェクト005: ジョン・ウッド&ポール・ハリソン | 2007年2月28日～5月6日 |
| 6 | MAMプロジェクト006:西野 達 | 2007年7月11日～9月24日 |
| 7 | MAMプロジェクト007: サスキア・オールドウォーパース | 2008年4月25日～7月13日 |
| 8 | MAMプロジェクト008:荒木珠奈 | 2008年8月9日～11月3日 |

MAM プロジェクト入館者数は、
上記展覧会と同時開催のためなし。